

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録（2014.12）平成25年度:106.

「酸素送気中の気管切開チューブ挿入患者に対するプロトコールを用いた加湿方法の選択」

上北 真理, 丹保 亜希仁, 川田 大輔, 小北 直宏, 藤田 智,
阿部 由希子

「酸素送気中の気管切開チューブ挿入患者に対するプロトコルを用いた加湿方法の選択」

旭川医科大学病院 集中治療部ナースステーション

旭川医科大学病院 集中治療部

上北 真理、丹保亜希仁、川田 大輔、小北 直宏、藤田 智、阿部由希子

人工呼吸管理中の気道加湿方法の選択に関しては、人工鼻と加温加湿器の特徴や人工鼻の使用を避ける必要がある場合などが報告されている。当院でも気道出血時や痰が固くて吸引しにくい場合、低体温、人工鼻で加湿が不十分な場合など、人工呼吸管理中に加温加湿器を使用する選択基準を設けている。

しかし、気管切開チューブ挿入患者に酸素送気を行う場合、人工呼吸器の離脱前に加温加湿器を用いていた場合でも、離脱後は人工鼻を選択することが多く痰の回収が困難となる場合、もしくは気管切開チューブの閉塞や狭窄に至り、加温加湿器の使用を開始する場合がある。

気管切開チューブの場合、チューブ内結露の確認は困難であり、さらに、痰の硬さや吸引カテーテル挿入の困難感は個々の感覚に影響され、加湿の評価は個人の判断に委ねられる。そのため、統一した基準で加湿の評価とデバイスの選択が行えるよう、プロトコルの作成に取り組んだため報告する。